



営農NEWS



不意な晩霜や低温による農作物の障害発生 に十分注意しましょう

本年は1月下旬より気温が平年より高めに経過し、水戸市におけるサクラの開花日が平年より13日、前年より1日早く3月20日に、満開日も平年より9日、前年より1日早く3月30日になりました。

一方、県園芸研究所が発表した情報（3月18日現在）によりますと、研究所のある笠間市安居のナシ「幸水」における開花予測日は、開花始期が平年より11日早い4月8日、満開期も8日早い4月13日と予測されています（実際の開花状況は、現地圃場での樹の発育状況を良く観察してください）。

ナシの開花～幼果時期には突発的に晩霜や低温などによる障害を受けることがあります。現在のところ、気象庁の2週間気温予報では、最低気温が平年並～やや低い気温で経過する予測ですが、今後の気象予報には十分注意して、不意な晩霜や低温が予報されたなら、下記の事項を参考に事前の対策に努めてください。

また、水稻の育苗中においても低温が予想される場合は、低温による障害の発生や天候の回復によるその後の高温障害の発生などに十分注意してください。

1 ナシの晩霜対策

ナシの霜害をうける危険温度は、満開期から幼果期で -1.7°C に30分間遭遇すると障害が発生するとされています。このため、今後、気象台が発表する気象情報の最低気温に注意し、以下の事前の準備に努めてください。

- 1) 多目的防災網が設置されている圃場では、早期に網を展張して（サイドは解放のまま）おきますと、晩霜や降雹の被害を軽減する効果があります。
- 2) 防霜ファンの施設がある圃場では、防霜ファンを 4°C にセットします。なお、外気温が -3°C 以下になる場合には燃焼法も併用するようにしましょう。
- 3) ゼオライトに肥料を添加した多孔質乾燥資材（商品名：霜ガード）が市販されており、これを事前に散布することにより凍霜害の軽減が図られます。なお、外気温の低下が厳しい場合には、燃焼法も併用するようにします。
- 4) 燃焼法として、市販の燃焼資材や自作の資材を用いて、気温 0°C を目安に点火します。点火は圃場の周囲や冷気が流れてくる方向から行います。なお、燃焼法を行うときには、煙など周辺環境への十分な配慮が必要になります。
- 5) わらマルチや草生栽培は、土からの放射熱を抑制するために霜害を助長するので、マルチは危険時期を過ぎてから行い、草生栽培は草刈りを励行します。

2 水稻育苗中の低温等の対策

出芽が揃ってから1葉期までは、昼間 $20\sim 25^{\circ}\text{C}$ 、夜間 $15\sim 20^{\circ}\text{C}$ で温度管理し、徐々に太陽光にならしていきます（水稻の育苗管理については、営農ニュース令和3年3月15日 第2851号を参照してください）。

その後の硬化期も、夜温は $10\sim 15^{\circ}\text{C}$ を保持します。最低温度が 10°C 以下になると、苗立枯れやムレ苗などの障害が発生しやすくなりますので注意が必要です。なお、温度計は苗の近くに設置して、検温するようにします。

- 1) 低温や晩霜などが予想される場合は、保温資材で被覆を行います。特に、 5°C を下回る低温が予想される場合は、被覆を二重にして保温に努めます。また、ストーブやロウソクなどを用いて、安全に保温しましょう。
- 2) 天候の変化に注意し、朝から急に晴れた場合には、ハウス内の温度も急上昇しますので、 30°C を超えないように適切に換気してください。なお、ハウス内の温度が上昇してしまった場合には、外気の冷風が急激に苗に直接あたらないよう工夫して、こまめな換気作業に努めてください。
- 3) 灌水は午前中に行い、天候や苗の生育に応じて夕方にはやや乾く程度の灌水量とします。日中の高温時や夕方は避けてください。また、曇雨天時や低温時の灌水は、行わないようにしましょう。低温時には土壌をやや乾燥気味にして、保温に努めます。

3 施設野菜の低温対策

- 1) 低温が予想される場合は、事前に施設内の気密性を高め、夕方は早めに密閉して保温に努めます。また、暖房機の燃料を確認し、電源などを点検します。
- 2) 無加温ハウスでは、ストーブなどを用いて、安全に保温します。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040